第６回　恵那市恵那南地区統合中学校準備委員会
環境整備・ＰＴＡ・コミスク部会　（会議録）

会議の名称	第６回恵那市恵那南地区統合中学校準備委員会環境整備・ＰＴＡ・コミスク部会
開催日時	令和５年１１月２９日（水）　午後７時から
開催場所	岩村コミュニティセンター　２階大会議室
報告	・各部会の審議状況について
議題	（１）「部活動に関すること」について ・各中学校で行われている部活動の現状 ・統合中学校での部活動のあり方 ～提案～ （２）「スクールバスの運行に関すること」について ・事前調査の状況報告
公開非公開の別	公開
出席者	委員 若森　慶隆 安藤　常雄 酒井　基之 鈴木　則彦 安藤　真由美 吉田　美恵子 永田　満依子 後藤　純一 片桐　慎一 後藤　理恵 松村　友美 山田　宗則 中田　憲 非　公　表 大石　佐緒理 佐藤　美保 教育委員会 丸山　頼彦 長谷川　椋 小栗　　研 横田　洋平 市川　寛子 市川　太一
会議の内容	会議録のとおり
傍聴者の数	５名

事務局　それでは、皆様こんばんは。毎回遅い時間、特にまた冬に差しかかったということで暗くなってからの会議ですけれども、お集まりいただきましてありがとうございます。第６回目の環境部会を開催させていただきます。まだお見えになってない方もおみえになるかと思いますが、時間になりましたので始めさせていただきたいと思います。
それでは、司会進行は、私、丸山のほうで務めさせていただきます。では、レジュメをご用意させていただいております。初めに部会長の挨拶からよろしくお願いいたします。

部会長　改めまして、こんばんは。寒い中お集まりをいただきましてありがとうございます。先週土曜日でしたかね、雪混じりのような、みぞれのような、降りまして、びっくりしたんですけども、何とかまだ雪には至ってないというようなことで、ほっとしておるとこですが。
この会合も、先ほどお話ありましたように、６回目ということで、この岩村からスタートして、また岩村に一旦戻ってきました。前回まで、校舎の位置とかについてお話をやっていただいたんですが、今回は、次のテーマであります、部活動とスクールバスの関係について今日は御議論をお願いしたいと思います。活発な意見を出していただけるように、よろしくお願いします。

事務局　ありがとうございました。では、レジュメの２番の報告であります。その前に、１つ、お手元に図面が用意してありますので、そちらのことについて、少しだけ、皆様にお知らせだけさせていただきたいと思います。お願いいたします。

事務局　それでは、今、皆様のお手元に鳥瞰イメージ図と書かれた図面が置いてあると思います。こちらは、前回の会議で、グラウンドの右側に校舎を増築するというＤの２案が決まりましたので、それを設計士さんのほうに報告しまして、パース、イメージ図を作っていただきました。こちらまだ基本設計の段階ですので、実際、実施設計に入りまして、もうちょっと詳細なイメージができるかと思いますが、現在のイメージ、１階がピロティになっているというような状況を立体的に再現してみました。こういった図面があるとイメージしやすいのかなと思いますので、情報共有ということでさせていただきます。
以上です。

事務局　この部会では、皆さん大分お話しさせていただいているので、ピロティがあって、２階、３階だよというイメージはつきやすいんですが、準備委員会の皆様にもお話をしていく中で、やっぱり言葉だけじゃちょっと分からないなと思って、ちょっとこういう絵を描いております。これでもって、イメージが皆様にも、ほかの方にも分かるのかなということでご用意させていただきました。まずちょっとこういうものを作りましたということで、ご承知おきをいただければと思います。
それでは、レジュメに沿いまして２番の報告になりますが、これ、先般、幹事会、いわゆる、それぞれ３つの部会で、今、分かれて協議を進めておりますが、その部会の進捗をちょっと共有させていただいた会がございました。そこにつ

きまして、どのような状況かというところをご案内させていただきますので、よろしくお願いいたします。会長様のほうで。

部会長　今、お話ありましたように、先般 13 日の日に幹事会がありまして、私どものこの環境部会のほかの、あとの２つですね、総務部会と、教育活動・学校事務部会という２つから、進捗状況といいますか、そういう報告がありました。私どものこの環境整備の部会のほうについては、この校舎の増築ですとか改修に関することをお話して、了解をいただきました。

あと、ほかの２つの部会からあったものを、ここに簡単にまとめていただきましたけども。総務部会のほうですが、部会は３回開催です。それで、今のところ、制服あるいは体操服、かばんとか上履きについての協議を行っているということでありました。そして、もう一つの教育活動と学校事務部会のほうですが、こちらは４回開催がされております。で、学校の図書に関することと交流事業に関することの協議が行われました。これも報告をいただいて、その幹事会のほうでは了解をしましたということでありましたので、お知らせをいたします。

事務局　ほかの部もこのような形で進んでいるということを、まずご承知していただきたいなというふうに思っております。

では、３番目の、今日の一番の議題のところに入っていきたいと思いますので、これよりは、部会長様のほうの進行でよろしくお願いしたいと思います。

部会長　はい。それでは、これからの協議事項ですが、今言ったように、部活動に関することについてですね。今、各中学校でどんなふうな部活動の状況かということを、先般、郵便物のほうでお手元に行っておるかと思いますが、その中身と、今後の統合があった後の部活動の在り方についての提案をどのようにするかということでお願いしたいと思います。

部会としては、その方向性とか在り方を学校のほうに提案するという形を取っていきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いをいたします。

事務局　別冊でホチキス止めにしてある資料を御覧になってください。部活動に関する資料です。まず、私のほうから、昨今における中学校部活動についての説明をさせていただいた後、それぞれ前回同様、それぞれのブロックに、今、席分かれておりますので、そこで協議をしていただいて、こういう形で中学校に新しい部活動、あるいは今の部活動をしていってほしいよという提案を、話合いを進めていきたいなということを思っております。

では、まず１ページ目ですが、令和５年度の市内の中学校の部活動一覧表になります。上の段のところには生徒数も載っておりますが、それぞれの学校の生徒数と、今ある部活に丸をつけてあります。球技においては、男子、女子と分けて書いてあるところと、一緒になっているところがありますが、学校によって、男女一緒に１つの部活動として活動している学校もありますし、男子は男子、女子は女子と分けて活動している学校もありますので、そのような表になっております。

学校規模によって、西や東が、当然、市内では大きい学校ですので、ここの２

つの学校には、いわゆる文化系の部活動も存在をしています。北中それから恵南の５つの中学校には運動部しか今は存在していないという状況です。
では、２ページを御覧ください。１ページで示したような学校の部活動の数、設置について、そもそもどうなってるかということなんですが、学校規模、生徒数や、複数顧問が置けるような顧問の体制、それから部活動の活動場所等々、それから地域の特性によって、学校ごとに設置部活動を決めています。
米印の１つ目、中規模学校。市内の中規模学校ですので、西中や東中を示しますが、部活動の顧問総数として 25 名程度います。複数顧問で実施できるようにというふうに先ほど申しましたが、そうやって考えると 12 から 13 の部活動数というふうに、おおよその数が決まっていきます。
１ページに戻っていただいて、西中や東中を見ていただくと、例えば、バスケ男子、女子で、それぞれ分かれていますが、これ１つの部活動と見ていくと、12 から 13 の部活動数になっていきます。これから協議していただく中でも、この西中や東中の、同規模の学校になっていくということを考えていくと、おおよそ、それぐらいの部活動数を想像しながら検討していくということになっていきます。
２ページの上、アスタリスクの２つ目になります。部活動の加入について、任意としている学校も出てきました。恵那市では、数年前まで、どの学校も基本的には全員入るよということで進めてきています。それは３ページ以降にある、部活動に関するいろんなガイドラインが出ているんです。その中には、部活動については、５ページをちょっと開いてください。５ページの下の部分にアンダーラインが引いてあるところがありますが、部活動への参加というところをご覧ください。部活動は、「生徒の自主的、自発的な参加により行われる」とあるように、部活動は同好の生徒の自主的・自発的な参加により行われるものであると。それから、その下のチョボです。アンダーラインを引いてあるところは、生徒の自主性を尊重し、部活動への参加を強いることがないよう、留意しなければならない。こんな文言が載っています。
一方で、恵那市の学校は、任意加入を推し進めていきますと、団体の部活動がなかなか成立しないという状況も当然出てきます。球技なんかでいくと、試合に出るだけの人数が確保できないというような状況も出てきますので、という側面と、それから、後でもまた出てきますが、部活動における教育的意義という部分から、できるだけみんなに入ってもらって、部活動の意義を感じながら、中学校３年間、心身共に高めていきたいという方針の下、基本的には全員加入で進んでいきました。と言いながらも、ここ最近の動きとして、地域移行に部活動がなっていくという日本全国の流れもありますので、もう一回この部活動の原点に立ち返ったときに、任意加入を認めていくという学校も、市内でも、今、出てきているという現状です。
また２ページに戻ってください。活動日についてです。恵那市では、学校部活動の活動は平日となっています。休日は、どの部活動も、保護者クラブを母体とする、地域で運営してくださっている保護者クラブという形で活動してもら

っています。中には、平日の夜間に実施している保護者クラブもあります。
市内の学校の平日の部活動の現状としては、そこに追記をしておりますが、前期、10 月までの期間ですが、週２回程度。１回の活動時間は 30 分程度の学校が多いです。中には 50 分、１時間程度１回の活動でできる学校もありますが、そういった現状です。それから、日没時刻が早まる今の時期、この後期は、放課後部活動自体を、今、実施していない学校が増えてきています。現状としては、今そんなふうに、学校の平日の部活動は随分縮小傾向にある、そんな現状をお伝えしておきたいと思っております。
それから、チョボの３つ目です。朝の部活動に関しては、数校で市内は実施している。１回の活動時間については 15 分程度というふうに確認を取っています。我々が中学生のときはもっと盛んに部活動をやっていた印象が強いかと思いますが、昨今は、このような現状で、限られた時間の中で部活動をしています。
続いて、大会参加についてです。地域移行に伴って、今、学校の部活動の大会参加は、基本的には、中学校体育連盟、中体連が主催する大会に参加しています。それ以外の大会、連盟が主催とする大会には、保護者クラブが母体となって、クラブとして参加しています。そんな違いも出てきています。
中体連の大会は学校部活動で参加していきますが、学校単体ではなかなかチームが組めないという現状も出てきていますので、数年前から、複数校合同チームとして中体連大会に参加できることになってきています。市内の学校でも、かなり多くの学校で、合同チームとして参加をしています。
それから、今年度、令和５年度からは、中体連の大会にクラブチームの参加が認められるようになってきました。中体連の大会も、大きく、今、様変わりをしてきています。ただし、クラブチームの参加については、それぞれ競技ごとに規約が違いますので、その点は申し添えておきたいと思います。
では、続いて３ページを御覧ください。３ページ以降は、令和５年３月に県の教育委員会から出されました部活動及び地域クラブ等に関するガイドラインの抜粋資料となります。こちらは、インターネットで検索していただくと、完全版といいますか、全てのものが閲覧できるようになっておりますので、また見ていただければと思いますが、その中を少し説明をさせてください。
３ページの１番。これまでの経緯というところで、学校部活動から地域クラブに移行していく流れがここに載っています。国の方針を受けて、岐阜県でも、令和７年度末までをめどに地域クラブへの移行を目指しています。
そして、大きな２番。策定の趣旨のところがありますが、一番下のところにちょっとアンダーラインがあります。既存の団体等を活用しながら、学校部活動を新たな地域クラブ活動として移行し、実施することが最良の方法である。恵那市におきましては、数年前から、土曜日、日曜日は保護者クラブで活動していただけていますので、この形を、地域移行という形で、今、恵那市では取組を進めているという段階です。
ちょっと飛びまして、５ページ。真ん中より下のところになります。学校部活動というところをご覧ください。そこに、部活動の参加。ここは、先ほど申し

たように、自主性を尊重するものですよということが書かれています。
続いて、６ページをご覧ください。６ページの上段の部分に、生徒の生きる力を育成し豊かな学校生活を実現させる役割というところがうたってあります。任意加入としながらも、半数ぐらいの学校では、今なお全員加入という形で部活動を進めている理由がここに載っています。部活動の意義はこういった教育的意義があるので、できるだけ多くの子供たちに参加をさせながら、心身共に健全育成を図っている、そんな目的がここに載っています。
続いて、６ページの（３）学校の地域性や特色を生かした部の設置というところには、複数顧問体制をしていきますよということが書かれています。その下の部分、生徒のニーズを踏まえたスポーツ・文化芸術環境の整備というところにも趣旨が載っておりますので、またご覧になってください。
続いて、７ページです。７ページの下半分のところに、２．管理というところがございます。ここに活動時間が載っておりますが、このガイドラインで示されているところとして、日没時刻を考慮して学校が設定できるようにということを書いてあります。これが、今、後期、半数近くの学校で部活動ができてないのがここになるんですけど、日没時刻が、今、５時近くになってくるとかなり暗い状況になってきます。恵那南の新しい中学校を考えたときに、通学時間のことも考慮しながら、それぞれ、遠いお子さんが家に着く時間を考えたときに、部活動が何時ぐらいまでできるのかな、そんなこともこれから考えながらやっていく必要が出てきます。
そういった細かい部分については、当然、学校の全体のカリキュラム等考えながら仕組んでいくことになりますので、今日皆さんのところで協議・検討していただきたいところとしては、１ページ目に戻っていただいて、恵南にある５つの中学校には、今そこに丸がついた部活動が存在しています。これが統合された学校で、この丸がついている部活をやっぱり残すべきだろうとか。あるいは、この部活よりもこっちの部活のほうがいいんじゃないか。あるいは、恵那西や恵那東中学校を参考にしながら、この辺りの部活動も入れていくことがいいんじゃないか。じゃあ、その部活動を決定していくためには、どんなことに注意を払いながら検討していってもらったらいいのかなということを、それぞれのブロックで相談していただけたらなということを思っております。
私からの説明は以上になりますが、何かご質問がありましたら。よろしいでしょうか。そうしましたら、一方的にお話をしましたが、これから、それぞれブロックごとで。部活動、そうか、今はこういう現状かというところから協議を進めてもらいながら、実際に新しい中学校で部活動、こんなものが欲しいよねとか、そのためにはこういうことも配慮しなあかんよねとか。決定するにはこういうことを考えていったらどうか。そんなご意見をいろいろいただきたいと思いますので、これからブロックごとの話合いに入ってきたいなということを思っております。

事務局　では、またそれぞれ、こちらの事務局の人も入りながら、どういうふうに取っかかりができればいいのかということも踏まえて進めていきたいと思いますの

で、よろしくお願いいたします。じゃあ、これから始めさせていただきます。分かれていただいて。

事務局　では、それぞれのブロックで、30 分ぐらいの時間を見ながら、いろいろお話合いをしていただけたらと思います。30 分経ちましたら、また声をかけまして、そこでまた、それぞれのブロックから出された意見を全体で交流したいなと思いますので、また、その際には、発表していただける方、よろしくお願いしたいと思います。では、お願いします。

部活動について～グループ討議～

事務局　では、30 分経ちましたので、そろそろ、それぞれのブロックで意見を出していただいたことを発表にしていきたいなと思います。今日は、小学校、中学校、こども園という順番に行きたいなと思いますので、発表していただける方どなたか決めていただいて、全然まとまってなくても結構です。こんな意見が出ましたよということでご意見ください。

小学校部会からお願いしたいと思います。

小学校部会発表者

小学校からでいいんですよね。

事務局　はい、お願いします。

小学校部会発表者

ちょっと認識がすごくずれてて、イメージとして、部活動の、数が増えるとか、選択肢が増えるから、子供も含めて楽しみだなという前提で考えていました。今の話を聞くと、各小学校のチームで集まったりしてるのもそうなんですけど、実際、今ですら部活動あまり成り立ってないというような話を聞いて。クラブチームとか、ジュニアチームとか、そういうところのほうでやってて、部活はあまり時間もないし。僕らの意見としては。あっ、違うなと。

あと、ここにあったガイドラインで、令和７年度中に地域に移行するとか、そういう話なら、今、少なくとも上矢作の子供たちが期待してる状態にはならないなと。だったら、もっと子供たちの要望を聞いて、やりたいことが、どんなことやりたいのかとか、そういうことで聞いたほうがいいんじゃないか。それと、特に恵南地区は文化系のものがないので、運動系の部活、それと文化系の部活、そういう割り方をして、もっと子供の選択肢を増やしたほうがいいんじゃないかなというような話になっております。

なので、結論出切ってないんですけど、今ここでどんな部活がいいかということは決められません。もっと時間をかけて、ほんとに子供たちと、１回のアンケートじゃなくて、どんなことしていきたいとか、そういうことを聞きながらやったほうがいいんじゃないかという話になっております。なので、地域活動の、例えば太鼓をやるとか、そういったものをやるとか、何かいろんな、そういう。僕が 40 年前にやってた部活とは全くイメージが変わってきてるなと思ったので、その辺は、もっと子供の意見を聞きながら決めていったほうがいいん

じゃないかなという段階です。
補足はいいですか。

委員　高校で働いていたときに、高校生が運動部活に入ってて、しゃべったときに、小・中と野球をやってたから野球部、バスケをやってたからバスケ部、そういった、ほんとバスケ好きなの？野球好きなの？いや、惰性って言ったときに、私はちょっと部活の在り方というのに疑問が生まれて。惰性じゃなくて楽しめたらいいなということを思ったときに、今日ここでお話をさせてもらって、一番最初に、そんなに子供たちの自主性をとか魅力、子供たちが主体を持ってというところがあったと思うんですけど、それを思うと、やっぱり大枠は先ほど言っていただいたみたいに、運動、文化系とかいってて、子供たちがもっと声を上げて、こういうことやりたいな、こういう、運動ならこういうことやりたいなっていう声が上げられる、自分らが決めたからこそ、そこで楽しめるという枠をつくっていってあげるといいのかなって。
私らができることって結構そういうことじゃないかなって。野球、バスケとか、種目を決めるんじゃなくて、そういうことが子供たちの将来につながっていくんじゃないかなということを思うので。部活を決めることも主体性を持って、子供が自らというところはとっても大事じゃないかな。これの土壌をひいてあげるのが今の我々の仕事かなということを思いました。
なので、うちらは、大枠はある程度用意するけれども、あとはさっき言われたみたいに、アンケートとか学校開校されたときに子供たちの声を聞くでも遅くないんじゃないかなという話合いになりました。補足です。

事務局　ありがとうございました。
では、続いて中学部会お願いします。

中学校部会発表者
それでは、中学校のほうの発表です。
ほどんと今言われた小学校さんと意見のほうは変わらなかったんですけども、今、当然やってみえる部活をなくすということはできないので、今ある部活は残すというのが１つ。あと、恵南のほうには、当然、今、運動系の部活しかないので、恵那のほうでありますような文化系の部活も必要があるのではないかな。運動の当然苦手な子もいるので、文化系は必要じゃないかなというのが１つ。あと、今、最後にも出てましたけども、当然やるのは子供たちなので、子供たちのやりたい部活を、希望を取ってやるのがいいんじゃないかなという意見が出ました。
以上の３点がうちのグループの意見でした。何か補足はよろしいですか。はい、

事務局　ありがとうございます。
では、こども園グループお願いします。

こども園部会発表者
こども園は、何個かいろいろ出たんですけど。まずは小学校のほうとも中学校のほうとも一緒で、やっぱ今、既存のスポーツにとらわれず、いろいろな習い事をしてる人も多いので、基本は子供。今の特に小学校の子たちに、今どんな

ことを中学校に入ってやりたいかというのをきちんとアンケートを取って、子供のニーズを把握するというのが大事なんじゃないかなというのと。次の話にもつながるんですけど、結局、部活をやるにしても、帰宅する方法とかがないと決まらないよねというのが、まず最初に出てたんで、それもちょっと１つだけ加えさせてもらって。

あと、箇条書きでまとめられてるんで、ぽんぽんと行きますけど。さっき言ったみたいに、文化部というのももちろん大事なんですけど、やっぱ人がどんどん減ってきますし、多種多様というのもあって、個人競技というのも基本的には部活の１つとして取り入れないと大会出られないとかということもあるんで、個人競技も少しずつ考えてもらうといいのかなというのと。

あとは、時間がやっぱ 30 分じゃアップで終了とか、準備で終了みたいになっちゃうぐらいだったら、部活というのを、部活の形、放課後というふうにとらわれずに、もう授業の一環という形でもう組み込んじゃってやってもらう。もしくは、そういうことであれば、兼用か、いろんな部活に兼用してもいいよみたいな。いろんなの参加できるよみたいな、ラフな感じにしてもらったりとか。

あとは、さっきの地域移行というのがもう令和７年度になってくって話なんで、もう最初から地域のクラブに頼るという形も大事なんじゃないかなというのと。

あとは、どの道、そういうふうに５校という広い範囲を１校にするんであれば、ある程度、同じ競技というのあるわけなんで、部活で。そういう部活が今後もし残っていくという方向であれば、もう来年度以降に、ある程度の部活をまとめていくというのも、もしやるんなら必要なんじゃないかというところがありました。

何せ、ほんとに帰宅の方法とかやり方はそもそも検討しないと難しいよねというのが最初の話でありました。以上です。

事務局　ありがとうございました。

今、代表の方にお話いただきましたが、この意見どうしても伝えたいという方がいらっしゃったら。よろしいですか。はい、ありがとうございます。

冒頭で、私誤ったことをお伝えしてしまったところを訂正させてください。恵那市では、今、保護者クラブという形で土日運営していて、そこが地域クラブに移行していきますということを言ったかと思うんですけど、そうではなく、今の保護者クラブが母体となって今後も土日の活動が進んでいくというのが基本的なスタンスです。先ほどちょっと誤ったことを伝えたと思いますので、訂正させていただきます。よろしくお願いします。

それから、11 月の上旬に、恵南地区の小学４、５、６年生でしたかね、たしか。アンケートを１度取っております。その中で、子供たちが新しい中学校に期待したいことというところでは、やっぱり部活動は上位３、ベスト３に入ってきている項目でもあります。そういったところも、今日お集まりの皆さんも、子供たちの声をやっぱり第一に考えて決めていくべきだということを、今日、声でいただきましたので、事務局のほうでアンケートの内容を精査しながら、まずは子供たちの今の声を拾っていくこと。

それから、ガイドラインで示されているところにも随分議論を進めていただいたので、恵那市として令和８年度以降どういう形の部活動が学校部活残っていくのか、そんなこともきちっとお示ししながら、新しい統合中学校の部活のスタートにも備えていかなければならないってことは、今日、皆さんのご意見からも頂戴することができました。
それから、どの部会も、子供の声を聞きながら。ちょうど僕は小学部会に今日長くおったんですけど、試合に勝ちたい、それから、上位の大会を目指していきたいという子は土日のクラブに参加して上を目指している。その子たちと一緒に学校の部活動でやってるところで、なかなか温度差があるというのも、今、現状で声を聞きました。
クラブに入っていない子供たちは、今どういう状況かというと、部活の中には、部活だけの子とクラブにも入ってる子も共存しています。中体連の大会は、部活単位で出るので、部活だけの子も出られるんですけど、競技団体が主催する年間に何回かある大会にはクラブとして出ていくので、部活だけの子は基本的には出ていかないという状況が今生まれています。そういった子たちは、やっぱり試合経験が積めないまんま年を重ねていくので、３年生になった段階でもやっぱり試合経験がほんとに乏しいので、自分はもう試合には出たくないですということで、かなり温度差が出てきているのも実情としてあるので。その辺り、今、いろんな部会でも話を聞かせていただきましたので、そのことも盛り込みながら今後の検討材料にしていきたいなということを強く感じました。
それから、今ある部活にとらわれないということもご意見の中でいただきました。大枠だけを決めて、あとは子供たちの自主性に。その、どの段階でというところも、これからタイムスケジュールを考えていくことが必要になってくるかと思います。一方で、今、例えば全ての学校にあるのは、ないかな。卓球とか、ソフトテニスは少ないかな。卓球が一番多いんですけど、卓球に入ってる子が、じゃあ統合したら卓球そのまま続けたいと思っているのか、そうでないのかとか、そんなこともやっぱりいろいろ子供たちの声を聞きながらやっていかなければならないですし。
バスケなんかでいくと、岩邑、山岡、明智であるにせよ、これもその子たちがそのまま統合中学校で同じ部活を続けるとしたら試合はできそうなんですけど、統合したら違う部活に移るってなると、試合ができないということも当然起こり得ることなので、その辺りは丁寧に子供たちの声を。先ほどもありましたけど、何回も子供たちから声を拾いながら進めていく必要性を、今日、皆様のご意見からいただきましたので、また今後の検討材料にしていきたいと思います。
では、私、以上でよろしいですか。

事務局　そうですね。さっき言ったアンケートを、どこのところも子供の意見聞きましょうよねということあったんで、これ、やっていく方向でいいですよね、せっかくなので。中身、今もちょっと、それぞれのところから意見聞けてるので、こんなことを聞けばいいんじゃないのかなというのも、ちょっとピックアップできたかなと思いましたけど。これ、せっかくそういう声上がっているので、

聞いていくことでよろしいですよね。
やっぱり子供たちがどう思ってるのかというのを聞いた上で、こうあるべきじゃないですかというのを、この部会として。部会というか、準備委員会から、新しい学校に向けて示していけるといいのかなと思いますんで。これ、アンケートの取り方どうしようね。

事務局　そうですね。まず肌感として、学校に、平日の部活動ですけど、やりたい？やりたくない？というところも必要ですか。

事務局　必要な感じですね。

委員　僕らの感覚と違うもんね、きっと。あと思ったのが、すみません、少なくとも上矢作の子たちはほかの地域のこと知らないので、人数が少ないから卓球しかないというのは把握してるんですけど。時間的なもの、どれだけたくさんできるかとか、多分、そこまで詳しいことは分かんないんですね。遠くなるから時間が少なくなるんだけど、このガイドラインに載ってるようなことも、マイナスの部分というか、多分、フルに期待してる子も増えるし、もうごりごりできるみたいな。けれど、現実、そうでないともね、あるということも含めながらいくと。

委員　なので、多分やるのは小学生の子なんだけど、今の現役の中学生の子に、今の現状とか、どのくらい満足しとるのかとか、もうこんなにやりたくないのかみたいなことを、今の中学生の子に聞くのが、現状把握するにはいいんじゃないかなと思って。中学生には中学生の、そういうアンケートの取り方で、小学生にはやりたいこととか、そういう取り方でやれるといいかなと思いますけど。

事務局　ありがとうございます。
アンケートの内容とか、こういうことも聞きたいな、なんてことがあれば、今教えていただければありがたいですが、どうでしょうか。何かありそうですね。

委員　少ない学校の子に、ここしかないのに、今の部活どうですかみたいな感じの質問よりは、どんなことしたかったですか、本当は、みたいな内容も。今の中学生に。

委員　うん。聞いてもらいたい。

事務局　可能性が広がるんなら、どんな部活がよかったかなとか。

委員　どういうことしたかった？って。現実的なこと。これがしたいということも。

委員　上矢作、そうですよね。卓球しかないから。

事務局　そうですよね。上矢作や串原のお子さんたちは、もうこれっていうふうにね、決まっていますのでね。

委員　そうです。かえって期待が大きいんです。

事務局　ほか何か、アンケートの項目で。

委員　今、多分、中学生で、明智なんかだと、陸上部に入ってる子は、ほかのクラブというか、スポーツをやってる子が、個人競技なんで、明智中学校としては陸上部に所属してる子が多いんですけど、違うところでやっているスポーツがあるとか、陸上部に入ってる子がおるので。なんで、ほかもあるんですけど、バスケとか入っとっても、クラブには入ってない子とかもいたりする場合もある

ので、ちょっとその部活とクラブがどういうふうに。
これには入っとるけど、ほんとはこのスポーツやっとるみたいな子がおると、逆にそこが多ければ、その部活ができるかもしれないので。特に恵那だと、多分、岩邑なんかだと盛んだと思うんですけど、スケート部。スケートやってる子が多い。なので、もし全部で聞いてみると、スケートをやっとる子が多くて、仕方なくほかの部活入ってる子とかおるかもしれないんで、ちょっとそういうのも聞いてみると、ちょっと見えやすいかなと思います。

事務局　分かりました。学校の部活動と、実際に中心的にやってるクラブの種目ですね。ほかどうでしょうか。よろしいですか。じゃあ、また御意見ありましたら連絡いただければいいですかね。

事務局　この部活動のテーマをどういうふうに持っていこうかなと、今思ってるところなんですけど。多分、一旦は子供たちの考えを聞いて、その結果を皆さんにフィードバックして、ああ、こうなんだというのを理解した上で、じゃあ最終的にこういうふうな考え方で、新しい中学校では進めていってねというまとめ方かなという、今、気がしたんですけども。
ということは、一度、そのアンケートでまず聞きましょう。その結果もまた皆さんにお知らせして。で、また共通理解して。じゃあ、部会としてはこんな考え方で、新しい中学校さんのほうで子供たちともよく話し合ってくださいという持っていき方でいいですかね。何となく、そうでないと、この部活って別に指定するわけではないので。というような御意見もありましたんでね。
そうするとアンケート。じゃあ、どうしよう。項目は今聞いた中でも、大体こっちで、あと、聞き方を整理できるということでよろしいのかな。

事務局　アンケートの素案を作って見ていただくか、その辺りもちょっと検討ですかね。

事務局　皆さんご意見いただいたことをもう一回ちょっと繰り返して、もう一回お話いただいて、確認いただいてみたいなところでしょうかね。

事務局　はい、分かりました。

委員　その素案ってやっぱり一回見たい。結局、ニュアンスは変わるかもしれんし。素案やってもらって、新たなことを提案したいこととかもあると思うんで。疑うとかそういう意味じゃないんだけど、僕らも字にして、こうだってなかなか言いづらいところがあるので。

事務局　では、たたき台作って。

委員　たたき台みたいなものが。

事務局　一回見ていただく、皆さんに。

事務局　次の部会のときに見てもらって。そうすると、年明けぐらいにアンケートで聞けるかなという感じになろうかな。

委員　慌てて決めれないので。

事務局　そうですね。

事務局　まだ確かに、部活動のこと、別にここまでに決めないとという、今そんな段階でもないので。確かに時間はまだありますのでね。

事務局　そうしましょうか。

事務局　分かりました。では、大きくは小学生と現役の部活やっている中学生に、それぞれ違う項目でアンケートを用意するということがまず１つと。小学生にとっては、前向きな、どんなことをやりたいですかということを中心にしながら聞いていく。現役中学生には、選択肢があったらどんなことがやりたかったかなとか、実際の今の現状がどうですかとか。その中には、時間とか日数とか、それからクラブと部活の入ってる割合といいますかね、現状を聞いていくというようなことで素案を作っていきたいと思いますので、またよろしくお願いします。

事務局　はい。では、一旦部活動のことは、じゃあ今の話で、そういうふうに進めさせていただきたいと思います。

部会長　じゃあ、今の部活動に関することについては、素案といいますか、それを次回でいいですか。

事務局　次回にお示しするということで。

部会長　はい。ということで、整理をさせていただきたいと思いますので、お願いします。

じゃあ、協議の２番目のほうの、スクールバスの運行に関すること。これ、多分、今の進捗状況等の説明をいただくと思うんですが、お願いします。

事務局　はい。では、担当のほうでお願いします。

事務局　恵那市スクールバス運行管理規則抜粋の資料をお願いします。規則の抜粋となりますが、スクールバスの利用者の範囲として、中学生の生徒は片道の通学距離が６キロ以上の者と定められております。例外もございますが、原則６キロ以上となっております。

裏面お願いします。市内中学校のスクールバスの運行状況です。一番朝早い子ですと、恵那西中学校の久須見から乗る子が６時 55 分発、７時 20 分着となっております。こちらの子は自主運行バスを利用しておりますので、自主運行バスの時刻となっております。スクールバスの子ですと、明智中学校の阿妻から乗る子が７時 10 分発、７時 26 分着で通っております。家からバス停までが一番遠い子ですと、恵那北中学校の姫栗を利用してみえる子が家から４キロとなっております。

下の表ですが、恵那南地区各中学校における通学距離が一番遠い子。徒歩、自転車通学者の一覧になります。南地区の中学校全体で見ますと、山岡中学校の子が、田代地区の子が田代集会所辺りから 7.6 キロを家から通学している現状となります。

委託業務の進捗ですが、既に業務委託済みでして、内容は、バス運行ルート、運行ダイヤ、運行するスクールバスの種類と車両数の検討を委託しております。委託業者は、実際にバスを走らせるなどして現在検討していただいているところです。また案ができましたら皆さんにお示しいたしますのでお願いします。

以上です。

事務局　補足はいい？

事務局　そうですね。バスの運行につきましては、今、専門の、実際こういった新しい

バスルートを実際に作った経験のある業者さんに委託をいたしまして、どこに、今、生徒さんが住んでいるか、何年後にはこのような生徒さんの分布になりますという情報を基にバス停を想定して、実際この想定したバス停まで行けるのか、冬場でも安心して行けるのかどうかということを、実際バスを走らせていただいて、昨日、今日も走っていただいておりますが、実際、現場まで行って、バス停がここにあることも、安全かどうかということも含めて、検討していただいているところです。

こちらは、検討した結果、どんなものが出てくるかと言いますと、バスのダイヤですね、それからバスのルート、この路線を走っていきますよという、そういった成果品を、皆様の前に、この検討結果としてお出しすることができると思いますので、それをたたき台として、皆さんにバスルートについてご検討いただければと考えておりますので、どうぞよろしくお願いします。

はい、以上です。

委員　今のバスのダイヤとかルート、所要時間、そういうことなんですけど、特に時間に関しては、冬と夏ってすごく違うじゃないですか。凍結の心配があるとか。特に上矢作、その意見が多くて、木の実トンネルから下るところがてかてかになるじゃないですか。それと山岡のファミリーマートに行くとこの、喫茶店があるとことか。急げというんじゃなくて、一番悪い条件のときに実際運行してもらって、そこから割り出していかないと。かかるのはしようがないと思うんですよ、冬危ないというのはね。だから、そういうことを、そういう時期にもやってもらって、実際、冬場と夏場は当然違うと思うんで、それも冬期の、変な言い方すると、かちかちに凍ったときに走ってもらうぐらいのシミュレーションもできればやってもらうと、現実に近いのかなと思いますので。

事務局　ありがとうございます。はい、その辺、指示させていただきます。それこそ、最近、実際、上矢作とかも走ってるんですけど。業者さんからの意見の中でも、ここはどうも冬場は凍るぞと。このルートはちょっと考えなければいけないぞというような意見もいただいてまして、やっぱり経験してる業者ですので、そういったことには非常に神経使いながら、今、バスルート検討しておりますので、皆さんに報告させていただいた上で、厳しい目でご覧いただければと思います。よろしくお願いします。

部会長　これも、同じく次回にある程度のものが。もう少しかかります？

事務局　もう一回後かなと思います。

委員　いいですか。

部会長　はい、どうぞ。

委員　今、明智中学校・小学校で、スクールバスの送迎で、ちょっと保護者のほうから出てるのが、ちょっと使い勝手が悪過ぎるので変更してほしいということで、今、そういう話を準備委員会さんのほうにも行っていると思いますけど。ほんとに運行しながら、ここはちょっと、ということが多分あると思うので。業者さんを、信頼がないというわけじゃないですが、ちゃんと保護者が、これはちょっと子供たちにとって不都合じゃないかなという意見があれば取り入れても

らえるような柔軟性を持ったような運行にしていただきたいなと。
今、ほんとに１人、そのバス運行の地区の保護者の方がすごい頑張って、何か月か、４か月か。もう始まってすぐ、これは大変だ、変えてほしいってやつをやって、やっとこの前、まだ変わってないって言うとったかな、話合いがちょっと進んだかなって言っとったぐらいだったので。明智の運行が、多分、あんまり慣れてない業者さんなので、というところもあると思いますが、本当に合併のときのバスもちょっと不安だという意見があったので、柔軟に対応していただけるようにしてもらえるとありがたいなと思います。
はい、すみません、以上です。

委員　すみません。

部会長　はい、どうぞ。

委員　今の意見とちょっと似てると思うんですけど、実際に先ほど部活動でも子供にアンケート取るって話があったと思うんですけど、実際バスに乗るのも子供たちだと思うんで、それこそ子供たちに対してアンケートという形がいいのか分かんないんですけど、保護者の方にアンケートを取って、実際に今どういう状況なのか、何か不都合はないのかとか、こういうふうにしたほうがいいんじゃないかというのを、子供なり保護者なり、どちらも取るかでもいいんですけど、というふうにすることもいいんじゃないかなと。
以上です。

部会長　よろしいですか。じゃあ、ありがとうございました。協議事項の、部活動の関係と、今のスクールバスの提案を今いただきましたので、事務局のほうへお返しします。

事務局　はい。では、今、スクールバスの状況で、少しご意見いただきましたので、それも伺いながら、しかるべくタイミングで、また皆さんと協議をできるときに、ここの議題にも入っていきたいと思っております。
では、今日は、これで今８時半、１時間半ほどたちました。最後４番の、次回の環境部会の日にちのことになります。ちょっと事前に、日にちとか会場とかも踏まえながら決めさせていただいて、12 月 19 日の火曜日の夜７時。これで次回お願いしたいというふうに考えますので、皆様よろしくお願いいたします。
そこで、次回は、さっき言ったアンケートですかね、子供たちに聞く。そこのことを中心に最終確認したいなと思ってます。会場は、前の順番で行けば、次、山岡かなというふうに思ってますので。また、会場の空いとるか、空いてないかも含めまして決めたいと思いますけども、日にちだけは 19 日の火曜日ということでよろしくお願いしたいと思います。
じゃあ、本日の内容はここまでとなりますので、皆様の協力の下、１時間半、完了させていただきました。ありがとうございます。では、最後に、今度は副部会長さんから。

副部会長　いえいえ。

事務局　じゃあ、部会長さんから、最後によろしくお願いしたいと思います。

部会長　私たちの頃と部活動の在り方が変わってきたというのを何となく聞いておった

のが、今日こうして資料が出てきて、あっ、改めてこんなふうだなという実感を、多分、皆さんお持ちになられたんじゃないのかなと思います。その中での議論でしたので、少しつかみにくいようなところもあったかと思うんですけど、意見がたくさん出ました。そうした意見を次回の中で取り上げてもらって、もう少しまとめやすいというのか、話を持っていきやすいようにできていければなということを思っております。

今日は遅くまでお疲れさまでした。ありがとうございました。

事務局　ありがとうございました。